課題解決型インターンシップ

ペルー大使館で観測塔贈呈式

「ナスカの地上絵」保護に協力

ペルーの世界遺産「ナスカの地上絵」の保護を目的とした本学の課題解決型インターンシップ「MIRADORプロジェクト」に参加した学生5人が3月20日、在日ペルー大使館で行われた観測塔「ミラドール」の贈呈式に出席した。8年にわたり、多くの専大生がつないできたプロジェクトの成果であり、出席した学生は文化財保護への思いを新たにした。

プロジェクトの中心は田島陽志さん（平16経済）。在学中、ナスカの地上絵を訪れた田島さんは、環境変化で数年後には消失してしまうかもしれないという現地の声を聞き、保護活動を決意した。2011年、当時本学キャリアデザインセンター長を務めていた池本正純名誉教授と有志の学生によりプロジェクトがスタート。翌年には田島さんが株式会社MIRADORを設立した。地上絵を展望できる観測塔は現地にあるが老朽化しており、ペルー文化省、現地の日系人団体、そしてMIRADORが出資して新たな観測塔を作ることで合意。専大生らと田島さんはこれまで、地上絵をモチーフにした製品開発や広報活動を行い、資金を募ってきた。18年度は8人の学生が参加し、建設資金の一部に充てるためクラウドファンディングの準備を進めると同時に、日本とペルーの政府機関などとの協議に携わった。

観測塔は地上18㍍から地上絵を展望できる。昨年6月から建設が開始され年末に完成した。田島さんは「専大生と一緒にプロジェクトを続けているが、前向きに取り組む姿が印象的だ」と話す。

贈呈式にはハロルド・フォルサイト駐日ペルー大使ら約20人が参加。福田杏子さん（文3）が活動について説明し、「専大生がこれまで行ってきたさまざまな活動の一つの成果として観測塔が完成し、とてもうれしい」と話した。宝井ちなみさん（文2）は「遠い国だったペルーが、身近に感じられるようになった。国を超え文化を守ることの大切さを実感できた」と振り返る。

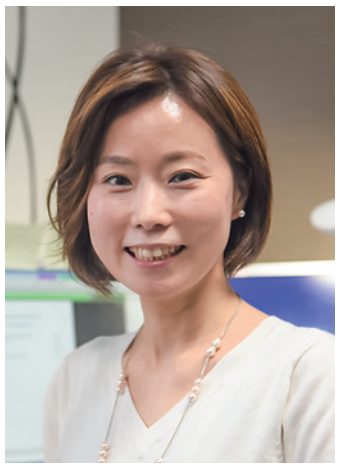
19年度の課題解決型インターンシップでは、日本人のペルー移住120周年を記念したイベントの企画運営を行う予定だ。田島さんは「ペルー大使館や民間団体の会議などでいろいろな人たちと関わり、社会性を身につけてほしい」と話している。

贈呈式でフォルサイト駐日ペルー大使（右）にパネルを渡す左から福田さん、瀬戸夏帆さん（文4）。下は完成した観測塔

今年で14回目となる本学独自の長期インターンシップ「課題解決型インターンシップ」の募集説明会が4月8日、生田キャンパスで開かれた。まちのコミュニケーションづくりを目指した映画上映会の企画運営や、川崎のものづくりを支えるための広報活動などが2019年度新たに登場。全18プロジェクトで、5月から12月まで活動する。募集期間は受け入れ先によって異なり、第Ⅰ期は4月17日（水）、第Ⅱ期は23日（火）まで。説明会に不参加でも応募できる。詳細はキャリアデザインセンター事務課へ。

課題解決型インターンシップ
19年度参加者募集中

専大校友を訪ねて



聖路加国際大学
公衆衛生大学院講師
星野（ほしの）　絵里（えり）さん
（旧姓永田、平13経済）

赤ちゃんがかかる難病の胆道閉鎖症の可能性をスマートフォンでチェックするアプリ「Baby うんち」を開発した。おむつに付いた便の色を撮影すると数秒で正常、要注意などの判定が出る。最も身近にいる親が確かめられる仕組みだ。肝臓と腸をつなぐ胆管がつまる胆道閉鎖症は、生後間もない乳児1万人に1人の割合で発症。早期に手術をしないと肝硬変や肝不全を引き起こす。

―難病の早期発見へ アプリ開発―

自身もこの病気を持つ女児の母親で、発症時からの経験が開発に結び付いた。2016年開設の大学院のプロジェクトチームはさまざまなバックグラウンドを持つ専門家で組織され、他大学の協力も。アプリを使い胆道閉鎖症を発見した事例がすでに出ており、データを公開し早期発見のための実証研究も進めている。

「うんちは体調のバロメーター。手法をほかの病気にも応用し、赤ちゃんを助けたい」と語る。

東京都の出身。仕事で海外勤務が多かった父親から「物事を理解するためにはまず体験を」と言われて育ち、小さいころから両親とともに世界を飛び歩いた。

専修大学附属高の教員に勧められ、専大経済学部国際経済学科に進学。狐崎知己ゼミで発展途上国の経済を学んだ。「狐崎先生はどんな提案にも否定せず『いいね。やってみたら』と背中を押してくれた。何にでも挑戦できた」と振り返る。

卒業後、青年海外協力隊員としてタンザニアの村落で統計を教える活動を展開。貧困や生死の有り様を考えた。「さらに広い世界を見たい」と猛勉強の末、米国コロンビア大大学院に入学。専攻は博士課程途中まで開発経済だったが、在学中に結婚し授かった長女の胆道閉鎖症の闘病がきっかけで医療研究の道に。同大学院医療経済・政策学博士号を取得した。

「娘は4月で10歳に。元気に新体操に打ち込んでいます」。娘を思う時も研究を語る時も、まなざしは常に温かい。

専修人の新しい本

詩集　母守唄　母は焚き木です
国見修二著

国見修二さん（昭53文）が詩集『母守唄　母は焚き木です』を上梓した。

「母は山女（やまめ）です　春の渓流を泳ぐ春の使者です　宝石を散りばめながら―。」「母は麦わら帽子です　かき氷の甘さを残し　海へと飛ばされる麦わら帽子です」「母は焚き木です　燃え尽きても埋火となって　子をあたため続ける執念の焚き木です」

母への思いを込めた250余りの三行詩は、国見さんの故郷・新潟県妙高地方の風物や季節観によって彩られている。

「子守唄が母親から子への絆の証であるように、子が母親へ捧げるのが母守唄。かけがえのない存在である自分の母親を言葉で表現してみたいと、数年前から書きためてきた。旅先でもペンを取っていた」と国見さん。

「この中から、あなた自身の母を探してみて」と呼びかける。（玲風書房・本体1800円＋税）

全国の書店で、または国見さんから直接、購入もできる。

申し込みは■Eメール：k.shuji@snow.plala.or.jp■FAX：0255・72・4967

＜校友＞

校友会情報

〈不動産建設黒門会総会〉
▽5月16日（木）17時～▽神田キャンパス8A会議室問大木寛之氏☎080・3413・4842

〈31会総会〉
▽5月18日（土）正午～▽神田キャンパス8A会議室問石川豊弘氏☎03・3887・6238

〈石川県支部総会〉
▽5月18日（土）17時～▽JR金沢駅から徒歩3分「ホテル日航金沢」問丹後智浩氏☎090・8266・1626

〈千葉県支部連合会総会〉
▽5月19日（日）10時30分～▽JR／千葉都市モノレール千葉みなと駅から徒歩1分「ホテルポートプラザちば」※日髙義博理事長の講演会あり問伊藤隆文氏☎043・463・2391

〈川崎支部総会〉
▽5月25日（土）14時～▽生田キャンパス3号館「蒼翼の間」問田村昌男氏☎090・2211・6993

専修大学法曹会 無料法律相談会

校友会職域支部の専修大学法曹会が主催する「無料法律相談会」（後援＝校友会、今村法律研究室）の開催予定は次の通り。ご相談には事前の申し込みが必要となります。お申し込み、お問い合わせは今村記念法律事務所☎03・3264・1721まで。

【日程】※毎回水曜日▽4月17日▽5月15・29日▽6月12・26日▽7月17日▽9月18日▽10月16日▽11月20日▽▽12月18日▽2020年1月15日▽2月19日▽3月18日

【時間】16時30分～19時30分

【場所】神田キャンパス8号館1階「今村記念法律事務所」

アドニス87号刊行

4月15日刊行の校友会誌「アドニス87号」の主な内容は、校友会定時総会2019ご案内▽新校友歓迎座談会▽「われら専修人」国際ロータリー第2580地区2019―20年度ガバナー・新本博司さん（昭44法）／ラグビーを追うフリーカメラマン・松本かおりさん（平22文）

募金ご協力のお願い

専修大学の教育・研究活動、学生支援、教育施設整備のため、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金
キャンパス整備、教育研究充実、奨学金制度充実、国際化推進、スポーツ振興などに活用させていただきます

NEW 箱根駅伝出場応援募金
箱根駅伝を目指す陸上競技部を支援します

NEW 経済支援奨学金募金
経済的に修学困難な学生を奨学金で支援します

チェア募金
靖国通り神田新校舎（仮称）で使用する椅子の整備に充てます

古本募金～本で繋ごうオール専修の絆～
読み終えた本を学生生活を支える奨学金として活用させていただきます

お問い合わせ
専修大学募金局
TEL 03・3265・3157
E-mail : bokin@acc.senshu-u.ac.jp
https://www.senshu-u.ac.jp/about/donation/

募集期間　2020年3月31日まで

MUFG
Quality for You
確かなクオリティを、明日へ。世界へ。
三菱UFJ銀行